

令和7年9月18日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問）ＡＩ時代における教育の在り方について

令和6年2月定例会からの世の中の変化を踏まえ、本県として「ＡＩ時代における教育の在り方」に関する考えがどのように深化したのか、教育長の所見を伺う。

また、ＡＩ時代における教育について、具体的にどのような取組を行っていくのか、併せて教育長の所見を伺う。

（答）

生成ＡＩが加速度的に普及・発展している中、ＡＩを活用するための基礎的な素養の育成にとどまらず、ＡＩなどのデジタル技術を使いこなしていく力とともに、人との関わりや体験を通じて、批判的思考力を育成することや、その前提としての「学びに向かう力・人間性」の涵養が一層重要になっていると考えております。

このため、教育委員会では、昨年12月に文部科学省から示された生成ＡＩの利活用に関するガイドラインも踏まえ、「デジタルの力でリアルな学びを支える」との基本的な考え方に立ち、

- ・ 生成ＡＩなどデジタル技術の効果的な利活用を通じて、個別の知識を得るだけでなく、知識を活用して課題解決を図るとともに、
 - ・ 体験活動や探究的な学習などを通じて実社会やキャリアとのつながりを意識し、自ら考える力を身に付けていくことができるよう、
- 取り組むこととしております。

具体的には、産学官連携により実施している「ひろしまＡＩ部」におきましては、企業の若手社員の伴走支援により、例えば、高校生が血液検査の結果などの健康状況に応じた料理を提案するＡＩプロダクトを開発し、昨年度末に「HIROSHIMA AI PITCH」で発表するなど、生徒が自ら設定した課題の解決を目指した探究活動を行う取組を推進しているところでございます。

また、今年度から実施している「ＡＩの活用による英語教育強化事業」では、

- ・ 授業において、学習した語彙や表現の定着を図るためにＡＩと会話練習

- をした後、家庭学習においても、ＡＩとの会話練習を継続的に行うことや、
- ・ 生徒が作成した英作文をＡＩにより添削するなどの活用を行い、
 - ・ これらの履歴を踏まえて授業でのフィードバックや指導改善を実施するなど、

授業の中でＡＩを活用した実践を積み重ね、その成果を県内に還元することとしております。

教育委員会といたしましては、各学校がＡＩなどのデジタル技術を効果的に活用し、児童生徒の探究的な学びをより充実させることができるよう、引き続き研修や学校訪問指導等の機会を捉えまして、優れた実践や研究の成果を普及してまいりたいと考えております。